



（No.291） 校長 小松茂文

平成31年・令和元年度 学校経営ビジョン その2

学校教育目標：「ふるさとを愛し、学び育ちあう西岐波っ子の育成」

めざす子ども像：「傾聴 夢中 探求」

「絶対にこっちの方だよ。だってこの『棒グラフ』の『傾き』が、この『折れ線グラフ』と同じだもん。」「そうかなあ？同じように『変化』してないと思うよ。」四つ（二種類）のグラフを前にグループ4人の子どもたちが頭をつき合わせます。棒グラフの変化の内容に着目して、折れ線グラフを特定するという中学年の算数の授業の一場面です。

どの子もお互いの話に耳を傾け、『算数用語』を用いながら考えを出し合い、聴きあい学びあい続ける。このような姿をこそめざしたいと思います。温かな関係の中で、お互いが「傾聴」しあい、「夢中」になって「探求」する。その子ども像をめざすことこそが、「ふるさと西岐波を愛し、学び育ち合う子ども」の育成につながると信じます。保護者・地域の皆様とともに、「宝もの」である子どもたちを育んでいきたいと強く思います。

さて、過日の参観日とPTA総会へのご参加ありがとうございました。当日お伝えした経営ビジョンの概要を5月号に引き続き下記にお伝えいたします。

チャレンジ目標

・『さわやか あいさつ』 『ほかほか ことば』 『しっかりそじ』

⇒めざす子ども像の実現を図り、心あたたかな子どもたちを育てるために、児童会活動と連動させながら具体的な取組を展開します。

・『年間80冊』 ~読書活動の推進~ 読書「量」の確保を「質」に転化

⇒ 小学生は言語の語彙（ごい）が、「話し言葉」から「書き言葉」に移る大切な時期にあたります（例、話し言葉：「やばくない？」 書き言葉：「鮮烈な味覚」）。たっぷりの活字（書き言葉）に触れ、学力と豊かな心の基礎を育んでいきます。

重点取組事項

・学びあう喜びが実感できる授業実践を推し進め 学力を確実に定着させる

⇒ キーワード：夢中、一人残らず、聴き合う、アウトプット、ジャンプ（背伸び）

・自他の「人権」を大切にする取組を推し進め あたたかな関係をはぐくむ

予測困難なこれからの中社会に生きていく子どもたちに、「自立する力」を育みたいと切に願います。共にお取り組み（協働）いただきますようお願い申し上げます。